



デザイン・総合プロデュース：水戸岡 鋭治



和歌山電鐵
貴志川線 貴志駅の

たま駅長

真夏の青空が澄みわたる、とってもいいお天気の日8月4日、ぷらむ探検隊は和歌山電鐵貴志川線、そう、あの全国的にも有名な「たま駅長（現在は執行役員に昇級）」のいる貴志駅新駅舎の完成セレモニーがあると聞きつけ、早速行ってきました。



スーパー駅長「たま」は日曜日が公休日。その日は駅長代理の着ぐるみ「たま」が活躍しています。



「日本一心豊かなローカル線になりたい」をキャッチコピーに、2006年に運行を開始した「いちご電車」、翌年の「おもちゃ電車」に続いて2009年にデビューしたのがこの「たま電車」です。

猫と人との物語がある 日本一心豊かなローカル線

まずは、「たま駅長」を知らない方のための駅長誕生秘話から。
「たま駅長」は貴志駅の売店「小山商店」の飼育猫です。「たま」は生後間もない頃に駅前に捨てられていた「ちび」を、母親変わりに育てて育っていました。今は「たま」の母親「ミー」と一緒に、小山商店脇の町道にあたる公有地にあった小屋で暮らし、近所の人たちや乗客たちにかわいがられる「駅のアイドル」だったのです。

コスト削減で無人化となる貴志駅のシンボルになってもらいたい！この素晴らしい決断が奇跡を生み、貴志川線は地元「産」「官」「民」の素晴らしいチームワークで想像以上の再生を実現しています。足の引張り張りがあいのするのではなく、みんなが協力すれば「地域は栄える」と実感した社長の言葉は深く、「助けてあげようと思ったら、逆にこっちが助けられ、まさに『たまの恩返し』とのこと。実際「たま」が駅長になってからは、全国的に注目を集め、この小さな田舎町のちっちゃな駅に、たくさんの方が訪れるようになりました。今回取材した新駅舎は、そんな「たま」の駅長業務における多大な功績をたたえ、和歌山電鐵が属する「両備グループ」のトップランナー制度にもとづいて「執行役員」（エグゼクティブステーションマスターの肩書き）に就任した「たま駅長」へのご褒美（就任には役員報酬が贈られる）として考え

られた、とってもビッグなプレゼントだったのです。
当日、初お披露目となった貴志駅の駅舎の屋根は、日本の匠の技術を百年先まで残したいと紀州ヒノキの皮を張り重ねた伝統工法「檜皮葺（ひわだぶき）」を用い、高野山の職人が手掛けた世界に類をみない厳かな佇まい。だけど、屋根の上に耳があったりステンドグラスを用いた目や口があったりと、全体が猫の顔のように見える建物には、思わずにんまり微笑んでしまいます。木、石、土、レンガ、ガラスといった天然素材からなる大きな土間のような駅舎内は、ネコ好き鉄道ファンでない人をもゆったりと包み込む懐かしさとやさしさに満ちあふれています。
猫たちの生活空間に、たくさんの方が出入りする公共施設の「駅」が溶けこみ、おだやかな時間軸の中で、人と動物がゆったりと共存している…そんな温かい物語が日々紡がれているこの町は、リビートのお客さんが多いというのほのめける話です。



「たま電車」にはスーパー駅長「たま」が乗る「籠のたま」や「ベビーサークル」、三毛猫の柄をあしらった「たまソファ」、ベンチの脚を猫足にした「たまベンチ」等、デザインの異なった数人掛けの椅子がバランス良く配置されています。床はパターンのちがうモザイク張りの木でできていて、よく見ると「たま」の足跡がちょんちょんと続いていたり、図書館「たま文庫」や「たまブリクラ」など、普通では考えられないものまで設置されているのです。

四季の郷公園



まるで外国にでも行ったかのような
美しい緑に浸れる自然豊かな公園を発見♪

貴志駅で手にしたマップをたよりにふらり訪れた緑あふれる「四季の郷公園」は、そのスケールの大きさにビックリ!!公園内には自然観察の森と呼ばれる広大なエリアがあり、野鳥の森やメダカの小川、トンボの池、タケノコの丘やツバキの森...と、説明しきれない位たくさんのゾーンが点在。植物や昆虫、野鳥などの自然な姿を楽しめるようになっています。



公園内のフルーツパラダイスには、長さ約70mのローラー滑り台が!!子供広場には巨大なぶどうの形をしたすべり台や迷路など、遊具ひとつひとつの個性的で可愛いデザインも魅力です。



敷地奥にある温室「バラ館」には約700株、隣接する露地バラ園には約800株ものバラが植えられ、美しい花々が優雅に咲き誇る春と秋の開花シーズンには、なだらかな丘のあたり一面がふんわり甘い香り包まれるのだから。静かな時間が流れる園内の並木道に佇むと、まるで外国を旅しているかのような気分になります。バラ園裏には、これまた丁寧に手入れされたブルーベリー畑が広がっていました。

ONE DAY CYCLING LIFE

いちご自転車でGO!
サイクリングで
貴志川の町をぶらぶら散策

ゆるやかな秋風が心地いいこれからの季節は、貴志駅前で、かわいい「いちご自転車」をレンタルしてのんびりとした町並み散策もおすすめです。人と猫とがゆったり共存するどこか懐かしくてやさしい雰囲気包まれるこの町にははっとするような発見やトキメキがいっぱいあります。



編集後記

今回の旅では、地元暮らしに暮らす皆さんの温かい方たちの予想外に出会いはありました。貴志駅完成セミナーで撮影用に三脚を貸してくれた地元電気屋の吉本さん。「しおん」の元気なおかあさん。四季の郷公園・農産物直売センターのおばちゃんetc. 旅は一期一会。皆さんの笑顔で、ほっかぽかな気持ちにさせてくれたみなさんに感謝!!です。

四季の郷公園



ICHIGO 自転車でGO!

いちご電車にちなんで赤と白のかわいい「いちご自転車」。レンタル料は1日800円、半日500円です。子供用の自転車もあるので、家族みんなで楽しめます。



いちご貸り園



いちご自転車 レンタサイクル

いちご自転車は、貴志駅前の自然食品の店「しおん」で、借りれます。今回ぶらぶら探検隊はおかあさんの手づくりお弁当付き「ランチプラン」を予約。五穀米の和牛トンカツ

おにぎりは、めっちゃおいしいかったあ〜♡

熊野古道

至和歌山市

伊太折曾駅

伊太折曾駅前には、赤色のレンタサイクル「たま自転車」があります。

伊太折曾神社

伊太折曾神社

山東駅

山東駅

大池遊園

大池遊園

桃の産地「和歌山」の
おいしい桃で出来た
とろ〜り濃厚な
季節の桃ジュースは
絶品♡



サイクリングの最後には、cafe「しおん」で季節限定の贅沢なジュースをぜひ。春には新鮮ないちごジュースも登場しますよ。

貴志駅から自転車を走らせずの貴志川沿いは、豊かな緑と水に囲まれたおおらかな景観が楽しめる、サイクリングには最適なコース。途中目にするレトロな建物や看板を見つけるたびに、立ち止まってカメラに収めたり、足元の小さな花にときめきを覚えたり...。青空の下、心をやさしくほぐしてくれるような、幸せ時間を満喫できます。

「境内には木陰もあるから、そこでお昼ごはんを食べたいよ」地元のおばちゃんに教えてもらって訪れた「大國主神社」は、想像をはるかに超える美しさと清らかなパワーに満ちた広大な敷地の神社でした。中でも江戸時代中期に使われていたとされる清水寺の舞台と同形式の高床式舞台造り(二階建)神楽殿は、必見!!わざわざ訪れた喜びを感じさせてくれる、嬉しいパワースポットです。

坂道になって
いる参道。
自転車で登りきるの
はちょっとキツ〜イ!!

周辺のスポットにも、のんびりやさしい時間が流れています。